
天然彼女

オウギ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

天然彼女

【Zコード】

N1074D

【作者名】

オウギ

【あらすじ】

天然で毒舌な幼馴染の相手をする。主人公の苦悩の日々を描いた物語です。（基本的には1話ごとの短編にしますが、作者の気まぐれで続くこともあります）

第1話・人の生きる価値！？

「ねえ、涼人^{りょうじん}って何で生きてるの？」
「いきなりなんだよ。それより恵美^{えみ}また屋根から来たのか？」
「うん。そうだよ」

どうも、荻原^{おぎわら}涼^{りょう}です。

一応この物語の主人公です。

で、この屋根からいつも乱入して来るのは、
隣の家の幼馴染の黒澤^{くろさわ}恵美^{えみ}です。天然です。
今日もよくわからん事を言つてます・・・。

「ねえねえ、何で入つて生きてるの？」

「この世界には、生きてる価値の無いような人もいるんだよ？」

相変わらず、毒舌です。

「この世界には、生きてるに価値の無い人なんていないんだよ」

俺は、エミに優しく語り掛けます。

「うわだー！」

どつかのホラーゲームのようにエミは叫んだ。

「絶対に一ートつて必要ないじゃん」

「一ートだってな必死に生きてんだよ。全国の一ートに謝れ」

「一ートの皆さん」みんなさい。

ただ、少しは働きましょうよ。

「じゃあ、引きこもりは？電波さんは？」

「そういう人はな、心に大きな傷を持つてるんだよ」

全国の引きこもりサン、電波さん。

明日をがんばって生きましょー！－！－！

「つらうつて何で生きてるの？」

俺は、いじほど答えるべきなんだろうか？

「わからない。でもな、人ってそれでも必死に生きてんだよ」

たしかに、何で生きてるかなんて誰もわからない。
だから、今日を必死に生きて自分なりの答えを見つけるんじゃない
だろうか？

「ふ~ん。なるほどね」

どうやら、HIMIはわかつてくれたりしない。

「ようするに、ヒートは死ねって事？」

なんもわかつてねえ！－！

第2話・学校

どうも、リョウです。今日は、学校です。

「おはよー」

エミが、田をこすりながらやつて来ました。

「うん。ちょっと踞るだぞ」「どうした、踞るだぞ」

珍しい。HIIは普段なら午後1-1時には寝てしまつのに

「何やつてたんだ？」

卷之三

「アーティストの心」

「どうしていきなり。なんか呪いたいやつでもいたのか？」
「ううん。たまたまテレビでやつてたからヨウで実験しようと」

どうやら、呪いの対象は俺だつたらしい。

そういえば昨日の夜急に胸が痛くなつたのはこいつのせいらしい。

・・・・・・・・・・・・よかつた。俺生きてる。

「ココウ昨日なんかなかつた？」

「…………ベッヒ」

「ひじなんか幅つとまたやつせつだから俺は、黙つておいた。
この娘みは今日の丑參りで・・・・・。

「え～であるから～」

今は授業中。

さつせから同じ事を言葉や言い回しを変えて何度も言つてこ。N。
さすがにいい加減に飽きた、クラスのやつらもつるざつなのつだ。

「先生ー。」

そのとあ、HIMIがビシッと手を挙げた。

「ひつした、黒澤？」

「せつせから、同じことばつかつ語つしますケビ。

アルツハイマーですか？」

教室がフリーズした。

「こわなり、何を言つてゐんだね

「せつせから、同じ事を何度も言つても意味ないですよ。やうやく、
定年なんですか。」

仕事やめたらどうですか？」

「…………」

HIIはこれでもかってくらいの笑みをうかべている。

それとは反対に教師はもう泣きそうだ。

「めんなさい先生。HIIの代わりに謝ります。

「……………血瘤」

先生は教室から出てしまった。

そのとき田中から何ががこぼれた気がしたが気のせいだらつか?

その後、あの教師は学校を辞めて、田舎に引っ越したりして。

第3話・家族の絆（前書き）

すいません、ほんとうにノリで書いてます。

第3話・家族の絆

「いつも、つまうです。

最近急に寒くなつてきまつたよね。

ただ、HIIは寒くなればなるほど元気になる不思議生物です。
今日も元気に屋根からやつてきまづ。

玄関つかえよ。

「今日は向しに来たんだ」

厄介なことないことを願ひ。

「最近、父さん元気なくつて……」

「ほお。ここにも優しさがあるらしい。
俺が、感心してくると。

「まだ働いてもらわないといけないのに……」

んへ？ とおかしい気がするんだが。

「定年まであとかなりあるのに……」

「金かよー。」

「だつて、ほかに使い道無いじやん」

使い道とか言つなよ、親父さん可愛がつだら。

もし聞いてたら……あつ！

窓の向いにHIIのお父さんがいた。

わざわざの会話を聞いてませんよつにー。

「だから、早く元氣になつてやるわないと」

急いでお父さんの背中に哀愁が漂つた気がする。

じつやう、聞こえてたらしく。

俺は、あわててフォローする

「どうも、HIIのお父さんのこと心配してんだる。」

「うわ～。HIIの父親さんが目を輝かせてじつにを見ている。
はつれりこつて気持ち悪い。

「心配?しないよ。」

「まご、HIIのお父さん泣き止みになつてゐる。

「とつあえず、給料が下がつたりしなければいいかな

あれ? HIIのお父さんどうかいつひやつた。

その日、HIIの父親さんは帰つて来なかつたらしく。

必死に仕事をして、家族に捨てられないようにがんばつてるみたいだ
がんばつてください。

第4話・学校と妹？（前書き）

ほどんど、ノリで書いてます。

面白かったら、感想等お願いします。

第4話・学校と妹？

「ねえねえ、兄さん」

「どうも、りょうです。」

さつきから、俺に話しかけてくるのは妹の香南かなんです。ぱっとみ普通ですが誰に似たのかちょっとおかしなところがあります。

100%H!!のせいです。

「どうした、カナン」

「今日学校でね校長先生がつそをつべ」とはいけないって言つてたの」

ほお。校長先生、いいこと言つじやないですか。妹の力ナンが通つてゐる学校は俺の母校だ。

今でも知つてる先生がいる。たまに近くを通る時に元担任がいたりして昔の話などしている。

「で、それがどうしたんだ？」

別に普通にいい話だと理解つんだが。

「校長先生ね、嘘つてゐるんだよ」

校長先生！教育者が言つたことをみんなへてどうあるんですか。今の校長先生しっかりしてください。

「どんな嘘をついてるんだ？」

校長先生ももしかしたら事情があるのかも知れないから
どんな嘘をついてるか聞いてみた。

「ハゲ隠し。いつもジラしてるとだよ」

ハゲか。この場合、仕方が無い理由に含まれるんだろうか？。

「校長先生も人間なんだよ隠し事ぐらこするわ。後で注意してあげ
なさい」

俺は「」のときカナンに言ひべき言葉を間違えた。

次の日、学校から電話があつた
どうやら、カナンは同士を集めて、校長に注意しに行つたらしい。
校長は、教師全員の前でカツラを取るはめになってしまったそうだ。

「ごめん、校長。

第5話・模様替えと「つ名の嫌がらせ

いつも、毎度おなじみリョウです。
今日も、精一杯生きてます。ただ、誰でもいいから助けてください。
なんなの?この状況?

「おかえり～リョウ
「おかえり」

一人は、なぜか俺の部屋にいます。

部屋に鍵をかけても効果は無しです。どうやって入ってんの?

「なにしてんの?」

厄介」とじやあつませんよ!」。厄介」とじやあつませんよ!」。
厄介」とじやあつませんよ!」。

『気分的に模様替えしようと思つて』

自分の部屋をやれよ。

「どんな風にしたらいいと思う?カナちゃん」

HIMIは、カナンのことをカナちゃんと呼んでいる。
ここつらが、一緒にいると絶対何かが起る。
そして、俺に被害が及ぶ。早く帰つてくれ。

「ん~。私的にはこの部屋要らないと思つんだよね」

ちょっとまて。勝手に俺の部屋を要らないとが言つた。

「汚いし、汚れてるし、キノコ生えてるじ」

生えてねえよ。

「じゃあ、壊す？」

おい、カナン。笑顔で何いつてんの？

さすがに、俺もキレるんですよ。

「だつてえ」

だつてえ、じやねえよ超天然毒舌女。

「 しおりがなによ」

しょうがなくねえよアホ妹。

その後、俺はホーリーセンターは行って鍔を買ってきました。
もうこれで、入つてこれないだろう。

俺は安心して眠りについた。・・・・。

「おせよ～コロナ」

ハリがいた。

「おはよ♪。兄さん」

その隣にカナンもいた。

まちで?

第6話・委員長？

「こんにちは、リョウです。
もう、俺の部屋に俺の場所はありません。

カナンとH!!に占領されました。奪還不可能です。

誰かゲット ッカーズ呼んでください。

「兄さん、電話です」

俺に電話？珍しいな。普段ならケータイにかかるてくれるの？」。

「はい、もしもしリョウです」

「もしもし、荻原？」

「委員長？」

「委員長って呼ぶな。」

電話の相手は通称、委員長。本名 齋藤 茜。
さいとう あかね

1・5のクラスの委員長。俺の知ってる中でもっとも常識人だ。

「で、いきなりどうしたんだ？」

「実はねクラスのことで相談したいことがあるんだけど・・・。」

俺は、アカネの推薦でクラスの副委員長をやっている。

「今から、荻原に家行つていい？」

「別にいいけど。」

「じゃあ、今から行くね」

それから、10分後にアカネはやってきた。

そして、部屋に案内すると。HIIもいた。カナンもいた。

「あれ？委員長何してるの？」

お前が何してんの？

さつきまでいなかつたのに、また屋根から来たのか。

「HII…」

委員長びっくりしてるよ。

俺は、アカネに俺とHIIが幼馴染でよく来ることを話した。

「なるほどね」

やっと納得してくれたらしい。

かれこれも2時間説明している。

「つまりどうこう」とHII。

まったく理解してねえ。

俺の周囲には、常識人はいないらしい。

その後、クラスのこと話す時間は無かった。

第7話・人には不可能な「」

こんばんわ、リョウです。

今日は、学生の味方休日です。

今日はあの天然毒舌女が来ないこと願います。

そう、思いながら俺は、ベットから起き上がった。

「おはよー」

俺の願いは、速攻で打ち砕かれました。

「はあ、今日は何で来たんだ」

おかしい、寝る前にちゃんと鍵をかけたんだけど・・・。

「リョウ、進路つて決まってる?」

おっ。こいつにしては意外な質問がきたな。

「俺は、まだ決めてない。エミは?」

「私、今悩んでるんだよね」

エミが悩むなんてめったに無いはずなんだが

「何で悩んでるんだ?」

「私ね、小学校の教師に・・・」

「やめとけ」

こいつが教師になつたら、子供がグレるぞ

「じゃあ、保育士に・・・」

「やめなさい」

「こいつに保育士は向かない。俺が断言しよう。
昔、HIMIはよく近所の子供と遊んでるんだが、帰る頃には絶対に子供は泣く。

原因は・・・・いろいろHIMIだ。

「じゃあ、美容師に・・・」

「・・・・」

昔、こいつに俺の髪を切らせたことがあった。
そのとき、俺は不覚にも眠ってしまった、それがいけなかつた・・・
。

起きたらスキンヘッドになつてたから驚いた。
どうやつたらハサミでスキンヘッドにできるんだ。

「HIMIは仕事しないでくれ。」

そのまうが安全だ。

「え〜。なんで?」

「HIMIに仕事は向いてない

「わかった、働かないで。男に貢がせろってこと?」

お前もう帰れ。

第8話・人間不信

キーンゴーンカーンゴーン

ども、リョウです。

今、学校が終わって、家に帰ると珍れです。

「荻原、帰つちやだめだよ」

変える間際に委員長ことアカネが話しかけてきた。

「今日なんかあつたけ?」

「放課後、今度の体育祭の打ち合わせするって言つたでしょ

そうだった、こんじ俺のいる高校は体育祭をやるらしいから
クラス委員は今日の放課後集まる予定だつた。

「で、今日は何を決めるんだ」

「今日は、各クラスのTシャツを決めるんだつて

うちの学校では、体育祭に各クラスのTシャツを作ることができる

「うちのクラスはどんなかんじのを作るんだ
「私はね、 のプリントが入つてるのがいいと・・・
「・・・・すみません、何でもするんで
それだけは、勘弁してください。・・・。
」

俺は委員長から、すばらしい言葉を聞いた瞬間に
机の上で見事なDOGENZAをした。

軽く人間不信に陥るようなことと委員長の口から聞けるとは思わなかつた

「なんで？」

アカネはびっくりしたように聞いてきた。

俺は、そんな危険なものをクラスのTシャツにプリントしたがってる委員長にびっくり何だが。だって、18歳未満は聞いちゃいけないような言葉なんだもん

「よく考えてみ、なんてプリントしてあつたらみんな驚くだろ」

実際、俺は聞いたときに驚いた。

「私は、うれしい！！」

委員長の田はキラキラしていた

・・・・委員長、元に戻ってくれ。

第9話・もう一人の家族

「リョウー今帰つたぞ」

騒がしくてすいません。

こんばんわ、リョウです。

また厄介なやつが増えました。

というより帰つてきました。俺の家族の一人です。

「リョウどうしたんだ? 浮かない顔して」

あんたが帰つてきたかだよ!と言いたい

この、自分のことをまったく分かつてない迷惑なのは俺の兄です。

兄の荻原 荘介 21歳。

職業不明〔ただ、こいつの財布にはいつも10万位は入ってる〕
いつも旅に出かけるためあまり家にいない。
今日もよく分からぬ旅から帰つてきたところだ

「今度はどこに行つてたんだ」

今度はどんな無茶をしたのだろうか

「秋田県にな」

「・・・・? なんで」

特にソウ兄〔そうすけの呼び名〕と関連が無いと思つただけど・・・

「鬼退治しに行つてきた」

何やつてんの！？

もうこいつ人間じゃねえよ。

鬼つて幻想の中の生き物だろ、秋田にいねえよ

「ただ、倒したのに住人から文句を言われてしまった・・・・・・」

ソウ兄はけつこう落ち込んでるようだ。

「それってどんな鬼？」

少し気になつて聞いてみた。

「それが、おかしな鬼でな。わるい子はいねえかつて聞くんだぜ」「今すぐ秋田の人たちに謝つて来い！！」

どうやら、ソウ兄が倒したのはなまはげのようだ。
秋田の人たちごめんなさい。

その後兄はまた旅に出た。

もう帰つてこないことを切実に願う。

第10話・嘘と眞実（前書き）

祝！10話

第10話・嘘と眞実

「ども、リョウです。

今日は、休日なので家で『JELLY』してます。

「兄ちゃん、食後に『JELLY』してると牛になれるってホント?」

今日は、カナンか・・・。

HIMは今日、どつかでかけてるからやつづでもると思ったのに。

「どうした、いきなり」

「私、うそつて嫌いなの。眞実が知りたいの」

HIMみたいな」と言つてる。

カナン、頼むからHIMのようにならないでくれ。

「牛にはならんよ。ただ、太りやすいって言つ表現だ」

「・・・・っチ、担任め」

舌打ちすんなよ。田がマジで怖いつて。

「後でなんかいんねんつけて教師やめさせてやる」

・・・・・ちよつとまで。ここつ何言つてんの?

「つをつべやつ全員死ねばいいんだ。」

「のままじゃやばいな・・・。

「カナン。時にはうそをつく」とも必要なんだ」「高校生がえつちい本買うときに年齢偽るとか?」「どうからそんなの聞いた?」

・・・・たぶんあいつだらうな。

「HIM姉から」

「HIMから聞いたことは信じてはいけません」

「人はな、自分の身を守るために嘘をついたり責任を人に擦り付けたりするんだ。」

「それはいけないことじやないの?」

「そうかもしけないけど、人と人がうまく付き合うためには必要な

んだよ」

「じゃあ、昨日カナンのマンガやぶいたの兄さん?」

「・・・・・・違ひよ」

「・・・・・・」

「・・・・・・」

「つつき。」

そういうとカナンは自分の部屋に戻つていった。

戻る途中で死ねつて聞こえたのは氣のせいだと思いたい・・・。

・・・・・氣のせいだよな?

第1-1話・RPGを始めよう（前編）

祝！！5000HT！！

これからもよろしくお願いします！！

第1-1話・RPGをやないか

「ねえ、このパソコン、リョウの？」

「ここには、リョウです。パソコン買いました。
俺が、自分の部屋で買ったばかりのパソコンをこじつてると
また屋根からエミがやってきました。

「ああ、この前バイト代入ったから買つたんだ。」

今日の俺は上機嫌、今なら全てを許せそうな気がする。

「ねえねえ

横からエミが話しかけてきました。

「ん、どうした

「このゲームやらない?」

エミが持っているのはパソコン専用のゲーム

「それどうしたんだ?」

「このまえ、下駄箱にラブレターと一緒に入つてた

かいですか。何でゲーム入れたんだろう……。

「んで、それ貸してみ

「はい」

俺はエミからゲームを受け取りパソコンに入れた。するとパソコンから音楽が流れてきた。

クエスト・オブ・レジェンド

LOAD
NEW GAME <
OPTION

あなたの名前を設定してください。

「これどっちがやる?」

「私やる!—」

「じゃあ、エミな」

主人公　エミ

あなたのパーティー（3人）を設定してください

「これは、俺と誰にする?」

「カナンと委員長でいいんじゃない」

パーティー1 リョウ
パーティー2 カナン
パーティー3 アカネ

あなたとパーティーの職業を選択してください

「けつこう多いな。どうする?」

「私これがいい」

主人公 Hミ 職業 話術師

うん、ある意味あつてる。毒舌などとか。

「じゃあ、俺は」

パーティー1 リョウ 職業 ナイト

「他のどうする?」

「ちょっとマウス貸して」

そう言って、俺からマウスを奪つて他のパーティーの職業を決めて
いった。

パーティー2 カナン 職業 真実の追求者

よくこんな職業あつたな。

パーティー2 アカネ 職業 委員長

委員長ってどんなことするんだろう?

「これでよし!」

ほんとにいいのだろうか?

•
•
•
•

第1-2話・RPGをやります

ども、リョウです。

今、俺とHIMIでゲームします。

勇者一行は村に着いた

HIMI「これからどうする?..」

リョウ「まず、村長の所に挨拶に行かないか」

勇者一行は村長の家に向かつた

村長「勇者様!この村を救ってください!」

リョウ(こきなりだなこれ)

村長「村の向いの山に魔物住み着きまして村に貢物を要求してくるんです。」

御礼はしますので助けてください。」

HIMIは毒舌の魔法を使った

HIMI「あんたが貢物になればいいんじゃない」

空間が凍結した

村長は精神的に98のダメージ。対人恐怖症におちいった

村長「お願いですからそれだけは」

村長は土下座した。リョウの心に罪悪感を『えた。

リョウ「わかりました……。」

リョウは場の空氣に流されてしまった。

勇者一行は村の向こうの山に向かった

「ガアアアアアアアアアアア」

モンスターが現れた。

（いきなりボスかよ……）

エミ「委員長とカナンは敵を足止めしてて」

エミはパーティに命令した。

アカネの攻撃。

アカネ「あなた、
でしょ。」

アカネは禁断の言葉を吐いた。敵に80のダメージ。敵は混乱した。
カナンの攻撃。

カナン「最終奥義『デ・クルウ・ソレントル』」

しかし、MPがたりなかつた。
リョウの攻撃。

リョウ「てや！」

普通に敵に切りつけた。3のダメージ。
HIIの攻撃。

HII「ペ-----」

HIIは敵を自殺に追い込んだ。
勇者一行はバトルに勝った。

「HIIのゲーム何？」

明らかのおかしいだろ、話術師最強すぞだろ。

「けっこ面白いよ？」

HIIはこのゲームを気に入つたらしい

・・・・・・・

第1-3話・食欲は突然に（前書き）

いつたんRPG編を中断します。
またすぐに更新するで少し待つてください

第13話・食欲は突然に

「んばんわ、リョウです。

今、夕飯を作つてゐる途中です。

俺のうちは両親が共働きなのでだいたいいません。
だから、家事は妹と分担してやつてます。

「兄さん。今日の晩御飯何?」

俺は料理が好きでけつこだわつて料理を作つてゐる。

「今日は、中華系」

ちなみにメニューは、

エビチリ、チャーハン、チンジャオロース、ギョウザだ。

「今日は、グラタン食べたいんだけど」

「あいおい、もう作つちゃつたよ。

「今度自分で作れ」

「兄さん、それ本氣で言つてる?」

カナンは料理が苦手だ。

どれくらい苦手かといふと、毎回なぜか爆発が起つる。
ニトログリセリンでも使つてんの?

「じゃあ、明日作つてやるよ」

次の日

「兄さん今日の晩御飯は？」

「昨日、カナンが食いたがってたグラタンだ」

昨日のうちにホワイトソースを作つておいたから
後は、オーブンで焼くだけ。

「今日は、カレー食べたいんだけど」

・・・・・何言つてんの。

もう作っちゃったよ。

「・・・・・明日な」

次の日

よし、今日こそ。

カナンの気が変わらないいうちに・・・・・

（～）（～）

ん、電話だ。

「もしもし・・・・・」

「兄さん、今日友達の家に泊まるから」

もう作っちゃったよ。

その後、俺はカレーを一人で食べた。

第1-4話・パートと職業（前書き）

パートの選択肢について

第1-4話：パートと職業

「どうじも、リョウです。

ただ今、学校で公共職業安定所の方を招いて
職業の講演会やっています。

「え～最近では若い人にフリーターが増えています」

最近ではフリーターが増えていること問題になっちゃって。」

「それと同時にパートという職にも就かず学校も言つてない人も増
えてます」

「ねえ、リョウ」

横に座つてゐるエミが話しかけてきた。

「どうした？」

「前に人の生きてゐる価値についてはなしたよね（1話参照）」

「それがどうした」

今の講演とまつたく関係ない気がするんだが。

「パートってなんで働かないの？」

俺はパートになつたことが無いのでわかんないけど

「理由はいろいろあんだろ」

「たとえば？」

たとえば?たとえば何だらう?

「人間関係とか？」

「じゃあ、二一トつてクズじゃん」

「だから、前にも言ったけど二一〇だつて必死にがんばつてるんだ

全国のニースの皆さん重ね重ねすいません。

「だって、一いつて自分の部屋で一人もつて口ゲーやつてるよ

「へな奴らだよ」

「じゃあ、ギャルゲー

なんかモハヤた
ニハヒナガレシ

でも大丈夫！！今の時代、アーテランやリーブ2がある

「なんだ、リザウの部屋のベットの下にあるログークリアした？」

だから何でもそんなことを知るんだよおおおおおおおおおおおお

卷之二

この後、講演会は一時中断して教師にものすごく怒られた。
俺がハゲたらこいつのせいだ。

第1-5話・パズブレイヤー

こんばんわ、リョウです。

今俺の目の前で不可思議なことが起こっています。
もし自分の部屋に帰つてみると、誰かが侵入してて
ピューのコスプレをしてたらどうしますか?
俺は…………ゆうくじドアを閉めます。

「俺…………つかれてるのかな?」

もつも見たものを全力で忘れようとがんばります。
人って便利な生き物ですね
そう、現実逃避です。

「疲れてるんだな、なんか甘い物食べに行こう

疲れてるときは甘いものが一番
財布の中身を気にしないで近くのケーキ屋のケーキ全種類集めようと
かな。
いい感じにぶつ壊れて氣とことひで
そろそろ現実に戻りつ

「いつたいあれは何なんだ?」

たぶんあれを着ているのはヒーリング。

「…………ゆっしーーー」

俺は、勇気をふしきりぱつてもう一度ドア開けてみる。

「…………何せつてんの？」

「あつーお帰りヨウ。」

「ほんまにHIIでした。」

「何せつてんの？」

「リョウのゲームせつてんの」

「じゃなくて、そんな格好してんの？」

一番そこが気になるんだが。

「委員長がやつてんの」

「委員長がやつてんの？」

「せうだ、リョウのぶんもあるよ

そう言ひて、HIIなぜか口スロリの服を俺に見せた。

「…………」

最近、委員長の性格が変わってきた気がする。
委員長、元に戻ってくれ。
さすがにこれ以上変人が増えたら困る。

第16話・RPGをやめりま

俺たちは見事（？）山のボスを倒して村に戻ってきた。
そのことを村長に報告しようと思ったのだが、
村がなくなっていた。

人の姿がまったくなかつた。

「お前さんたちこの村に何かようかい？」

村人A現れた。

リョウ「こここの村に何かあつたんですか？」

いくらゲームだからっておかしい

村人A「村長がね対人恐怖症になつてこの村が成り立たなくなつち
やつたんだよ」

嫌に現実っぽい理由だな。

つーか、原因こいつ（HIMI）じゃん。

HIMI「根性ないね～」

悪魔だこいつ。

アカネ「もう少し人として強くなるつよ」

だつたら委員長はもう少し人として

平氣で18禁ワードをいわないで欲しいな。

カナン「あの村長のつやつや。まだお礼もひつてない」

「めんなさい、村長。

それから、俺たちはすぐ近くの王国に向かつた。

HII 「やつとついたね~」

リョウ「とりあえず宿屋に行かないか?」

村かここにつくまでの間2日かかつた。
その間ずっと野宿だつたから体が痛い。

アカネ「じゃあ、私は本屋に を買ひに行つて来るね

委員長がしゃべった瞬間周りの人々がびっくりしてこっちを向いた気が
がする。

カナン「私も本屋行きたい!今日、月間『真実の探求』の発売日な
んだ」

そんな本買うのはやめなさい。

リョウ「じゃあ、宿屋行つて部屋取つてくれるは。」

HII 「まつて、私も行く」

（宿屋）

店員「いらっしゃいます。一晩4500円ですが泊っていきませんか？」

ねだんが、現実に近いのは何でだらつ

リョウ「一泊お願ひします」

その後、俺たちはゆくべつと部屋に行き体の疲れを癒した

第17話・笑う幼い女のナ? (前書き)

祝! 100000HT!!

この小説を読んでくれてありがとうございます。
これからもどうぞよろしくお願いします!!

第17話・笑う幼い女の子？

「オギ～いる？」

「ども・・・リョウです。

風邪ひきました。

熱が39度あつてけつこいつやばいです。
目の前に妖精さんが見えてきました。
こんな危険なときに来客者です。

「こんなときに誰だよ」

今日は、平日だから誰も来ないと思つたのに。
それに俺のことをオギって呼ぶ奴はあんまりいないんだけど・・・。

「じゅりりさま・・・・・」

俺は、ドアを開けたことを心底後悔した。

「よつー元気か

俺が風邪引いてるときぐらこそつとじといてくれないか。

「元気じゃないです、今風邪引いてるんです

「ふ～ん

「・・・・・勝手に上がんないでください先輩」

「の人は俺の先輩でうちの高校の卒業生。

宮元 麻衣。
みやもと まい。

身長156cmで髪を腰まで伸ばしていくつもポニー・テールにしてる。そっち系の趣味の人はものすげ~に喜びやうな感じにかわいい。でも、俺は可愛いと思わないー！

「俺、具合悪いんですけど」

「ん? 気にしないで」

むちゅくちゅだこの人。

「静かに寝てないとヤツカちゃんつよ?」

「・・・・・・・・」

ナードですか?

「今日はどうしたんですか?」

「後輩をこじりた」

普段のこの時間俺家にいないんだけどな。
この人、超能力もあるの?

「やつこえれば、さつまじこへ行く途中Hロ本買つたんだけど

「・・・・・・」

そう言って俺にHロ本を見せてくれた。
たぶん店員ドン引きだらうな。

普通の人でも買わなこよつなえぐいやつだ物。

「どお?」

かなり危険な絵になつてゐる。

見た目女の子がかなりえぐいエロ本持つて笑つてゐる。
ん？ああ、言い忘れた。

先輩の性別は男だ。趣味は女装。

「・・・・・」

俺は、熱で倒れた。

いろんなことにつかれたよ、パト ツシゴ。

第1-8話・旅の思いではフリダンス

「リョウ、今帰つたぞ！…」

「こんばんわ、リョウです。

うちに知らない人が俺の名前を呼んでいます。
全身真っ黒で髪ももつさりしてます。
そして、警察でも呼ぶかな。

「リョウ、なにやつてんだ？」

「…………どうやら今までですか？」

一応名前を聞いておいつ。

「？。いきなりどうしたんだ？自分を兄を忘れたのか？」

「…………え、とソウ兄？」

「ほかに誰がいる」

知らない人はソウスケでした。
さすがにわかんねえよ。

だつて、行く時とまったく違うんだもん。

「今回なぜこいつてきたの？」

俺は、帰ってきたソウ兄にお茶を出しながら聞いた。

「ん、今日はハワイでフラダンスしてきた」

・・・ぐだらねえ。

この人仕事もしないで何してんの。

「リョウ～。いた、部屋にいないで何してんの？」

・・・・「厄介なのが増えた。

後なんで二階の階段から降りてきたの。
玄関使つてくれないかな？ムリだな。

「つあ！ソウ兄帰つてたの？」

「よう、エミ！」

この二人が絡むところになんねえ。

「今度はどこ行つてきたの？」
「ハワイだ」

なんか盛り上がつてるし。

俺は、部屋も戻る

（一時間後）

俺が下に下りてみると

いい年した自分の兄貴が見事なフランダンスを踊つていた。
その横で幼馴染も一緒に。

「リョウもやるか？」

「・・・・・いいです」

俺には、ここまで恥ずかしいことはできない。
だって一人ともよくテレビで見るような格好してるんだもの。

その後、HIMIにフラダンスを伝授してソウ兄は旅に出た。
できれば、もう今月は会いたくないな。

第19話・キャラクター紹介（前書き）

今回はキャラクターのプロフィール等を書かせてもらいました。

第1-9話・キャラクター紹介

どもども、オウギです。

今回は、キャラクター紹介をさせていただきます。
キャラクターが増えていくたびにこの話も増えていきます。
ではまずは、この物語の主人公のエミからです。

名前 黒澤 恵美 16歳

プロフィール

高校一年生で毒舌。

好物は甘いもの。辛いものは嫌い。

ぬいぐるみが大好きで部屋に大小あわせて30個ほど。

この物語の中で一番暴れてるキャラだと思います。
はじめの設定ではもう少しやさしいキャラにしようと思つたのですが
それだとあまり面白くないので軽くひどいくらい毒舌になりました。

では次に、この物語で一番不幸な少年

名前 萩原 涼 16歳

プロフィール

高校一年生でこの物語の中で一番の常識人。

音楽が大好き。バンドを組んでいてパートはギター。
最近はエミがかまつてくるのでギターの練習ができない。

この物語で一番不幸少年です。

次からは、もう少しだけかつこいいとこも書いてあげようかな？

今度、バンドの話も書いてあげたいです。

名前 萩原 香南 11歳

プロフィール

小学校5年生でまあまあ普通のキャラ。
まだ子供なので人のことをすぐに信じやすい。

なぞキャラです。

これからどのよつた方向で行くかまだ決まってません。

名前 萩原 莊介 21歳

プロフィール

たぶん、この物語の中で一番自由な人。
無職（？）なのにものすごい金持ち。

名前 斎藤 茜 16歳

プロフィール

高校1年生でクラスの委員長。
まじめだけど危険な発言をする。

この物語の中で一番の危険人物です。
はじめは、真面目なところとギャップを書きたかったのに気が付いた

。 。 。 キヤリスなじみ

第20話・俺的初夢方程式（前書き）

これから少し更新が遅れるともいます。
ですがまだまだ続けていくつもりなので
今年もよろしくお願ひします！！

第20話・俺的初夢方程式

「ねえ、リョウだれに挨拶してゐるの？」
「この小説を読んでくれてる読者だ」
「？」

「ねえ、リョウだれに挨拶してゐるの？」
「この小説を読んでくれてる読者だ」
「？」

HIIの頭から？がたくさん浮かんでいる。

「それよつ、リョウ～。リョウの初夢なんだつた？」

初夢かあ～。壮絶なゆめをみたぜ。
おじつことか涙が溢れ出さんばかりの悪夢だぜ。

60

~~~~~リョウの夢の中~~~~~

クールになれ俺。これは夢だ。  
間違いなく夢だ、じやなきゃこんなことはありえない。  
夢だからとしか言ひよづがない。

俺は今、富士山にいる。

どつして、俺のいる山が富士山って判るかと聞かれると  
それより、俺の目の前には不思議な光景が広がっている。  
ナスだ。俺の目の前にナスが転がっている。  
それも一個や一個じゃない。

「・・・・・ギヤグ?」

なんと、3億個だ。何でそんなに細かく分かるかというと  
これも夢だからさ。

そして、そのナスを鷹がものすごい勢いでついばんでいた。その横で、エミがタカとナスを火であぶって食べていた。

~~~~~

よく、初夢に富士山とタカとナスが出てくると良いと

語れれでにるかこれになしかな

本居宣長全集

富士山(良) + 夕力(良) + ナス(良) - 工三(絶対的悪) = 0

どんだけ、縁起がいいものが出てきたところで

月IIIが出てし機会はアラヤカスのた

今年はどんな年になるのやう

自然と俺の口からため息がこぼれた。

第21話・始業式とみんな

どもども、毎度おなじみリラウンドです。

今日から学校が始まります。

しばらく見ないうちにいろんな人が変わっていました。

その一例をちょっと箇条書きに・・・。

・クラスメイトA

髪の色が黒から茶色に、そして耳にピアス。

(「うちの学校は、ピアス禁止になつてあります）

・委員長 アカネ

見た目は特に変化なし。

発言内容が18禁から20禁POWER UPした。
具体的に言つとアカネの発言の部分が
た。から
になつ

く注意へ衆に子のみんなは真似しかやこけませんーお兄さんとの約束ー！

(コロウは、シシルの疲れから少し投げやりになつてます。)

・HII

正円に会つたときと見た目の変化はない

毒舌も特に変化なし。

これ以上の変化は不可能らしい、といつより変化しないで欲しい。

・ 担任

うちのクラスの担任が変わっていた。

ストレス系の病気で入院中だと新しいクラスの担任が言っていた。
ごめん先生。100% H/Mのせいだよね。

・ 校長

はげた頭からカツラ^元。

一番の変化だね！

<注意2>なぜ分かったかといつと、

校長の下の髪の色が黒で薄かつたのに、茶色でフツサフツサになつてたからです。

(コヨウは、シッコリの疲れから少し投げやりになつてます。)

この変化によつて

新学期の始まる集会のときに

校長が壇上に上がる瞬間、学校のみんなが（教師も含めて）吹いた。

校長先生わけが分からずオロオロしてた。

俺は、校長先生に少しだけ同情してしまつた。

ガンバレ、校長！—

第22話・委員長（悪魔）のやれやせ（前書き）

感想や評価などを書いていただけないと作者のエネルギーになります。
それから、改善点やどんな場面を書いて欲しいかななどを書いていた
だけると時間の都合上全て無理ですができる限り善処します。
これかも天然彼女をよろしくお願いします！！

第22話・委員長（悪魔）のやれやれ

「ねえ～リョウ。学校終わったら、あいつと付き合って」

「こんにちは、リョウです。

わざと嫌なことを聞いた気がする。

「HII、わざと聞いて言つたっ！」

先ほどのことは夢だ！！

「だから～放課後ちょっと付き合つて～

俺の希望は簡単に打ち砕かれた。

~~~~~放課後~~~~~

考える～この悪夢から逃れられる方法があるはずだ！

絶対に解明してやる！

じつねやんの名にかけて！！

△注意△つよこのおじいちゃんは普通の公務員（教師）です！  
リョウのおじいちゃんが名探偵とかいう裏設定はありません。

「つよ～何してんの～？」

・・・・もづくみたい。

その後、俺たちは商店街にやつってきた。

「ここに何か用でもあんの？」

つーか、俺を呼ぶ必要があつたの？

「今日は、委員長が言うには、の発売なんだつて」

そうか今田はの発売田なのかあ。

俺は、今現在の言語では解読できない言語をはいた。

「 私ね、それ買ったことないからわからんなくつてね。だから、リヨウ買って来て。」

ふざけんな、俺だつてそんなもん買つたことないは。  
だいたい、それつて20禁じやなかつたけ？

「二三歩のベットのところにいたわのあねじやん」

なんでこいつ知つてんの？

「眞ひでに」と、さういふやうへ

その後、本屋の店員に年齢を聞かれ。  
はずかしい思いをしたのは言つまでもない。

## 第23話・いぬ派？ねこ派？

「こんばんわ、リョウです。

「リョウって犬派、猫派。どっち？」

いきなりなんの脈絡もないな、さきまで最近の日本政治について熱く語つてたのに。

でも、HIIにしては割りと普通な質問だな。

「俺は、いぬもねこも好きだな

ちなみに俺の家にはいぬもねこも飼つてこる。

「私は～ねこかな」

ここにも動物を愛する気持ちがあつたんだな。

でも、昨日の帰つ道で道に寝てた猫を踏んでなかつた？

「そういえば、委員長つてどちら派だろ？」

アカネか、案外まじめな奴つて動物好きが多いんだよな。

「ねえ～、委員長つてねこ派、いぬ派？」

俺は、たぶんいぬ派だと思つ。

「私は、いぬ派かな」

「ええ～。委員長つてねこ派じゃないの？」

俺は予想どおりだったがエミの予想だとねこ派だったりし。

「だつて、いぬってなんかエロくないじゃない？」

そこかーーー！

「アカネ、いぬがエロくうつてわけがわからんねえよ」

じゃあ、ねこはエロくなさうなのか？  
基準がわからんねえ。

「だつて、荻原が選んだじゃない、だからエロいんだよ」

「めん世界中の犬たち、俺のせいで君たちの印象が悪くなつてしまつた。

ん？？ちよつとまで

「何で俺が選ぶとエロくなるんだ？」

「ことわざであるでしょ友は類を呼ぶつて、本屋で  
買つてるんだもん」

あれか（22話参照）！！

いやでも、あれってあかねのせいだろ。

「変態」

・・・・・アカネ。

お前は俺の味方じゃないのか？

その日、俺はもう誰も信じないことを心の中で誓った

第24話・犯人だあ～れ（前書き）

## 第24話・犯人があれ

こんちは、リョウです。

今、学校で問題が起つてしまい急遽HRが開かれています。どんな問題かと云うと、なんと学校内で花火をした馬鹿がいるらしい。

そのせいで、さつきから担任が犯人出て来いつて言つてるけど出るわけねえじゃん。

しかも、HIMもさつきから不機嫌だし。何も起きないことを俺は願う。

カミサマお願いです、少しの間HIMを止めてください。

「・・・リョウ。まだ、終わらないの？」

やばい、怒りMAXだ。

説明しよう、この状態になるとHIMの毒舌はいつも三倍になるのだ。

「だいたいさあ、こんなことやつて犯人出でくるわけないでしょ  
お~」

HIM。それは、ここにいる全員が思つてゐ。でもな、さつきから担任の視線がイタイんだよ。しかも、何で俺？  
HIMの方見ろよ、俺関係ないじゃん。

「犯人もさ、もつと計画してやつなよお~。」

イタイ。イタイ。ものすごくイタイ。

先生、その目線を俺の隣の席の奴にお願いします。

「犯人、絶対馬鹿だよ。死んだほうが少しはこの世のためになるんじゃないかな?」

犯人さん、ごめん。  
俺もうあなたをかばいきれません。

『・・・・え・』

あれ、校内放送だ。  
犯人見つかったの?

『皆さん、この学校内で花火をした犯人は・・・』

誰ですか?校長先生?

『・・・・私だ。』

校長!?  
何やつてんの?

『みんな、すまない私も教頭も酔つてたんだ・・』

教頭!?  
あなたも?

その後、校長と教頭がただ謝るだけの放送が続いたのは言つまでも

ない。

## 第25話・Goto 秋葉原

どもども、リョウです。

「兄さん、あれは何ですか？」

今、カナンとヒミと麻衣先輩で秋葉原に来てます。  
俺なんで貴重な休日にこんなとこ来てんだろ？

しかも、さっきからカナンが秋葉原に売られてる危険なもの（主に  
エロい物）  
に興味心身です。  
なんて答えようか？

「オギ、これ買つてきて」

そいつ言つて、PS2ゲームを麻衣先輩をもつてきた。

「……先輩。」  
「カナンちゃんの教育にどう？」

馬鹿だ！――この人馬鹿だ！――

小学生から性教育とか早すぎだろ。

「……却下で」

・・・・・早く帰りたい。

「リョウが好きなのはこっちだよね」

「ハハ、お前もエロゲーもつてくるなよ。

「いやいや、オギが好きなのは純愛系だつて  
そつこいつ問題じやないだろ。

「ちがいますよ~。リョウは鬼畜系が好きなんじすよ」

俺、エロゲーとかやんないんだけど。

「兄さん。わざわざからあの奇妙な踊りを踊つてる人はなに?..」

そつまつて、道端で激しく踊つてゐるひとたちを指差した。

「あの人たちはねヒト〇を呼んでるんだよ」

カナンに真実を伝えるのはまだ早いな。

「「「で、リョウはどちが好きなの」」

お前ら、まだ討論し合つてたの?

「兄さんはどちが好きなんですか?」

カナンお前も聞くな。

その後俺は、仕方なくどっちも買って帰った。  
エロゲーをどうするかで迷つたのは言つまでもない。



## 第26話・緊急入院

お久しぶりです、皆様。

最近急に寒くなつてきましたね。

ながながとすみません。

ちょっと嫌なことがあつたので・・・・・・。

つまり現実逃避です。

この前、急に胃に穴がきました。

医者が言つにはストレスの溜め込みすぎだそうです。  
一週間の入院だそうです。

エミのせいだ、絶対そうだ。

ふと思うんだけどこのごろ俺の扱いひどくないか。

最近どうも、嫌なことが起こりすぎだろ。でも、入院中はしばらく  
休めると思ってたんだが  
でも、そろそろ学校が終わる時間だ・・・・・・。  
・・・・今日も来るのかな。  
来ないでくれ・・・・。

「フヨウ～。お見舞いに来たよ～」

一番きちゃいけない奴がくるんだよね。

「そつか。悪いんだがそろそろ寝るから

ナイス俺！――これならエミも帰らないわけがない。

「だめだよ～。じめりく語り相手になつてよ～」

「だから、そんなん……。」

「机の下から、一番田の弓を出しその鍵の番号こへつだけ？」

何で知つてんの？俺の秘蔵の宝を！……

あれを買つたために年齢まで偽つたのに。

「…………急に田が覚めたよ」

お前にセコでな。

それから、俺はH!!の愚痴（毒舌）を聞き続けた。

「セコ言へばせわちからせ……」

いきなりH!!が真面目な顔した。

「…………急にビーハった？」

「病院でさ死臭がするよね」

看護婦さんじつ追い出して。

第27話・dead or alive in 雪山(前書き)

すみません。

学生の敵テストが近いので少し休みます。

「つよ~。雪降つてゐよ。」

「うだな、でもやんなことへつてゐる場合、やがれ。

「向で俺で雪立てるの~。」

「わあ~。」

「ども、いきなりですが俺とHIIはなぜか雪立つります。何でいつもたんだか・・・。んん~~。わかんねえ。」

「で、さうかる~。」

「とつあんぱ、このままトつてみよ~。じつとしたら死んじゃつよ~。」

確かに、HIIの雪立つておまへりのままじゃ死ぬよな。

「とつあんぱするか」

その後俺たちは、自分の勘と勇気を信じてつてこつた。  
無理でした。

「わよ~と待つたーー。」

俺は、さすがにこれ以上行くのは無理だと悟つた。

「これ以上はさすがに無理だと思つぞ」「でも、せつしきがあそこにあるから」

何でそれを早く言わないんだよーーー

そして、俺たちはその光に突っ込んで行つた。

その光は、湖が月明かりを反射していただけだつた。

「リエウ、私達死んじゃうのか？」

今日のHIIは何か弱気だな。

「うんうん、もうお詫びしたからいいだよ。」

やめてくれ。

「・・・・たとえば？」

つい、聞いてしまつた。

「校長先生の愛人の話とか教頭の借金の話とかかな？」

ものすゞハドロドロとした内容だな。

「あと、父さんのへそくりと母さんのへそくりの場所を同時に教え  
たかったな~」

やめなさい。

下手したら、家庭崩壊起きるわ。

その後俺たちは死んだよつて呟つた・・・・・。

結論からいひおまかし・・・・・。

夢だった・・・・・。

でも、夢の中の校舎の話とかは実話りじい・・・・・。

正夢ー？

## 第28話・バレンタインの悲劇（前書き）

バレンタインマークは明日ですが明日は投稿できないので今日しましました。

今さらですが、誤字・脱字等ありましたら。  
おしえてください。

## 第28話・バレンタインの悲劇

今日は男子と女子がともにそわそわする日。

そう、バレンタインデー。

男子は、玄関のところでなぜか深呼吸。

女子は、なんか四角い箱を手に持つてうるりうる。

何か、周りの空気がモテル奴とモテナイ奴で空気が違つた。それがバレンタインデー。

「…………頼むから人目のつかないところでイチャついてくんないかな」

そんな、そわそわした空氣の中でイライラしてゐるコヨウです。

「やうだよねえ~」

その横で、チョコを食つてゐるH!!も不機嫌。

「さすがにねえ~。キスまでしてるとねえ~」

・・・・マジ?

バレンタインデーだからって朝からがんばりすぎだろ。  
まだ朝の8:00だよ。

しかもここ、学校の玄関だよ。

そんな風な危険な今日。

たぶん、今年も委員長とかH!!とかがくれるんだろうな。  
今年は、生きてるかな……俺。  
そう思いながら教室に着くと

「リョウ。ハイこれ

「サンキュー委員長！」

早速、委員長から一個もらつた！――

そんなうれしい気分のまま、授業はずっと上の空。そして帰宅。

「兄さん。これどうぞ」

カナンからもゲット。

まあ、2つ3個もらえりや別にいいかな。

「それじゃあ食ひかな」

まずは、カナンのから

普通にハマしな去年より腕上げたな

でも、髪の毛がもつさり入ってるはナンデナンダロ？  
よし次は、委員長のにしよう

「…………これは今年も無理だな」

去年に同様に断念。

ます色  
綺麗なピンク色

そして乞い、保健室と病院の乞い。  
最後に形は、龍。

ものすごく精密に作られている、たとえるなら中華料理屋にあるあのリアルなやつに近い。

でも、見た目に騙されてはいけない。

見た目よりも匂いやその他の「」などで判断しましょう。――。

• • • • • •

— 過去の経験が来るんだからね。

・・・・・屋根から。

窓のほうを見るとそいつはいた。

「リョウ。作りすぎちゃつたからあげる。

・・・・。  
ツンデレだ。

こんなキャラじやなかつただろ。

「キャララちがくないか？」

「ツンデレの方が萌えっぽくない？」

・  
・  
・  
・  
・  
萌か。

「へやべたべてよ」で、はせたべせよ

それでは皆さん逝つてきます。

どうか無事で帰つてくるように祈つてください。

セガ・マガジン



## 第29話・顔のいい奴には裏がある

「こんちは、リョウです。

今田はうちの高校の受験日のために一般の生徒は休日になるはずだった。

ただ、各クラス2名をのぞいて……。

その2名は会場作りとかその他雑用のため休日は無し。それに何故か俺が選ばれた。

「オーライ、オーライ……」

俺は駐車場で車の誘導したり

受験生の道案内をしたりしている。

「つたぐ。何で俺が休日返上で学校のために働かなくちゃいけねえんだよ」

そもそも、あいつが俺のことを推薦しなければ……。

「なにサボつてんの荻原?」

今回の原因さんが来たよ。

「別に。誰かさんのせいで教師にパシリにされてるだけですけど……

・・・」

「はいはい、スネない、スネない」

我がクラスの副担任の北野きたの連夜れんや。

年は、25で東大卒の超エリート。

見た目もかなりかつこいいとのことだ。見た目だけはな・・・・・。

昨日のHRで担任が出張のために代わりにこいつが来たのはよかつたのだけど・・・・・。

今日の会場作りのための人を選ぶときに俺の意見無視で勝手に決めたアホだ。

「今日は、早く帰らないといけないんだ。悪いんだが早くやつてくれないか」

やつべー、クソうぜえ。

セリフ言つた瞬間に前髪がサラッと風になびくのがさうにつぜえ。しかも、こいつは・・・・・・・・・・。

「今日は、ママの誕生パーティーがあるんだ」

重度のマザコンだ。

### 第30話・今、旅立ちのときー? (前書き)

面白かったら。

感想ください、作者のやる気が上がります。

そして、やる気に比例して更新スピードもUPします。

### 第30話・今、旅立つのか…?

皆様、こんばんわ。リョウです。

今日は、休日でひつひつせしふりにやつべつでした。

今日は、エミも来なかつたし、ゆづくじ4回も寝ちやつた。  
・・・・やべえ、今夜寝られねえよ。田舎暮らしだし。

「カナン、何見てるんだ?」

俺が、二階から降りてきて居間に向かうと  
カナンが、真剣にテレビを見ていた。

「アニメだよ、兄さんも見る?」

そういや、この時間帯ついついアニメやつてるんだっけ。

「とつあえず、テレビから離れなやつ、テレビをゼロ距離で見たら  
田舎暮らし

さすがに、ゼロ距離で見たらやっぱつかな。

そして、カナンが真剣に見てるアニメの内容が気になつてきたので、  
俺も一緒に見ることにした(もちろん、ゼロ距離ジャナイヨ)

「・・・兄さん、どうしてついついしまうのね

(どうやう、兄と妹の別れのシーンらしいな)

「「めん。でも、どうしても行かなきゃならないんだ分かってくれ  
「わかったよ。じゃあ、兄さんこれ持つて行って」

(妹が何か紙みたいな物を渡してんな、あれなんだ?)

「これね、私が兄さんを思つて一生懸命書いたんだよ」

(この妹、優しいな。このアニメかっこつ感動するかも)

「これ、見ていい?」

「うん!」

(やっぱ、似顔絵とかか?)

「・・・・・・・」

「どうしたの兄さん」

(何か兄貴のほうの顔がひきつってないか)

「これを僕に?」

「そうだよ、一生懸命書いたんだよ。遺産の管理書と生命保険の書

類」

(・・・・・ずいぶん現実的だな)

「そうか、ありがと。じゃあ行つてくるよ」(ものすごく爽や  
かな笑顔で)

「こいつらひしゃこーー。」

「INのアニメ面白いか?」

俺は、気になつて聞いてみた。

「うそーー。」

ものすゞじく笑顔なのはいいんだが、INのアニメのどじが面白いんだ  
面白こぶをく〜3日かけて討論したいきぶんだ。

「兄さんにも遺産の管理書と生命保険の書類書いてあげよつか?」

変な影響受けちゃった。

### 第31話・マガコン卒業式（前書き）

面白かつたら、感想ください。

あと、今書いてるギャルゲーイベントシリーズで書いて欲しい場面  
がありましたら

それも、それも感想と一緒に書いてください。

### 第31話・マザロン卒業式

「えへ、本日は……」

ふあ～あ。大変眠いリョウです。

今日は、我が高校の卒業式。

皆さん、泣いてあります。大号泣です。

でも、俺帰宅部だから先輩に知り合いいないから別に泣く気ないし。

「それでは、校長式辞。」

そんなこんなで、俺が周りの空氣を全部スルーして眠氣と戦つてゐるときに事件は起じた。

俺のクラスの副担任の連夜先生が

普通ならば『保護者の皆さまは』起立ください』といひはずだった。しかし、彼は・・・・。

「『来場のママ、パパは』起立ください。」

・・・・・。

場の空気が静まり返つた。

俺 失笑

校長 唑然

保護者 直立不動

エミ 大爆笑

委員長 アカネ 泣きそうな顔

連夜先生 普段と変わりないむかつくな笑顔

学校の体育館に一人の少女の笑い声が春の暖かい空氣に乗つて辺りに響き渡つた。

そのとき、誰も動かなかつた。いや、動くことができなかつた（反語的表現）

一見、モデル並みの容姿を持つた教師からパパ、ママといふ単語を聞いたんだ無理もない。

連夜先生がマザコンということは、あまり知られていない。その後、何とか式は続行されたが、さつきまで泣いていた生徒は涙が乾ききつていた。

それは、涙を流しつくしてしまつたのか。

それとも、他に理由があるのかは分からぬ。

ただ、最後に教頭が

「3年生の退場です。皆様、拍手で追い出しましょ」つて、言つた瞬間はさすがに俺も笑つた。

「教頭つて、3年生嫌いなんだね！！！」

エミのその言葉がまたまた、体育館に響き渡つた。

教頭は、がんばって大きな拍手で「まかそうとしたが・・・無理だつた。

ドンマイ、教頭。



## 第32話・春（全ての始まり、そして終焉）（前書き）

読者の皆様、ごめんなさい。

作者、多忙のため更新が遅れました。

### 第32話・春（全ての始まり、そして終焉）

「ああ、～。・・・・モウ～」

「ここには、リョウです。

今日は、とても晴れたすばらしい日ですね！  
もう春ですね。

『春』それは全ての始まりであり、全ての終わりの季節。  
『春』それは新たな出会いの季節であり、それは別れの季節でもある。

『春』動物。たちは、日を覚まし新たな命を育む。

『春』植物たちは、太陽に向かって精一杯伸びてゆく。・・・・・。

「・・・・・すす～～～」

・・・・・花粉さえなければ。

長々と、じめんなさい。

要するに春なんか大嫌いだ！馬鹿ヤロウ！！

(春が好きな皆さん、心をお詫びします。BY作者)

「リ、ヨウ、～」

HIMIも花粉症です。

「ね、えへへ、ティッシュない？」

俺は、無言でHIMIにティッシュを渡した。  
HIMIの顔がすりこことなってたけどあえて言わなかつたのは俺なりの優しさだつたのかもしれない。

「リョウもHIMIもたいへんだねえ」

なら帰つてくださいよ、麻衣先輩。

と言えないのは、俺がヘタレだからではない。  
たぶん・・・・・。

「・・・・・う、ぬがいですよ～（怒）」

やばい、HIMIの笑顔がヴェリイイイイイイイイスウェイイイイイト  
だ。

「・・・・・オカマのくせに～」

やばい、麻衣先輩の顔はヴェリイイイイイイクウェウウウルだ。

「やつは、鼻が詰まつて女とは思えない顔してるね（ハート）」

ROUND1 START

第一ラウンドはHIMIの攻撃で始まった。

「先輩じゃ、化粧とつたら人とは思えないよつな顔してるじゃないですか～」

## HIIの先制攻撃

「アハだね、でも今のHIIよみはましかな」

麻衣先輩のカウンター

「…………」

HIIの怒りによつて、第一ラウンド終了。

そして、第一ラウンドへ続いて逝くのであつた……。

その後、HIIは花粉症を自力で治したらしく。

「…………」

今日で、春休みも終わりか……。  
ども、春休みの終わりを感じて、少し憂鬱なリョウです。

「今年の春からもう俺も2年か……」

そうです。

もう、明日から2年生です。  
進化です。レベルアップです。  
デジモで風に考えると勇氣の紋章が必要かもしれません。

「今年の春休みは…………」

…………。

はつきり言つて地獄だつたな。  
でも、今年はまだいいほうか…………。  
具体的には語らないが世の中知らないほうが幸せな事もあるだけ  
言つてしまひつつ。

「…………学校行きたくねえ…………」

どうしよう、ものすごく休みたい。

明日からまた地獄のような日々が始まるのか…………。

「でも、行かなかつたら行かないでどうせ、Hawaii来るんだうな

家だと、HIMIの毒舌に付き合つ。

学校だと・・・・

アカネの放送禁止用語に悩まされ。

あのマザコンのフォローとかしなきゃだしな。

「なんつーか、ガンバレ俺みたいな

自分で自分をほめてあげたいよ。

「ファイトー俺！－！」

「……リョウ～。何してるの～」

俺の部屋（2階）の窓のところにHIMIがいた。  
客観的に見て俺の行動は頭が狂ってる人かただの寂しい人かの2択  
になるだろう。

「リョウ～、ちょっと脈はからせて～」

そつ言つて、俺の手をとつて脈を計り始めた。

「～愁傷様・・・・。脳死します。もう生存は不可能ですね～

ガンバレ俺！  
負けるな俺！！



## 第3・4話・留守番電話サービスセンター

「・・・めんどくせえ」

ども、今から連絡網を回さなければならぬいショウです。  
なんで、名前順なんだよ。荻原だから必然的に前のほうになるじや  
ん。

連絡網にも身長順とかないのかよ。

「しかたない・・・まわすか」

めんどくせえ。

これから、出かけようとしてたところなのに。  
連夜マザコラが急に『明日のことなんだけど（以下略）』といつわけで、クラ  
スの人に連絡しといてください。僕はこれからママとパパとティナ  
ーにいくんだ』

ふざけんなアホ教師。

まずはアカネからだつたな。

～～

ガチャ！

「ただいま電話に出る」とができません。～～

なんだつながんないのか。

「ピー」と囁つ発言の後にメッセージをどうぞ」

とつあえず、メッセージを囁つとか。

「…………（ピー）（注意・お好きなー8未満禁止用語をどうぞ）」

俺の手は音速の速さで携帯の電源を切った。

「…………確かにピーだけじゃ……」

ピーはピーでもこれはだめだろ。

「次だ。……次」

次は確かHIMIだったよな。

～～～

ガチャー！

「ただいま電話に出られない」とができません

「いつも今電話に出られないのか。

「発信音の後にメッセージをのこらないでくださいね」

これおかしいだろ。

残すなってなんだよ。

「ピー」

「え~と、俺だけど明日（以下略）なんだって」

よじいれでいいか。

「で???

「・・・・・ピー。削除されました」

## 第35話・ギターの果てに（前書き）

物語に出でてくる曲とアーティストがわかつたら作者まで。

### 第35話・ギターの果てに

どもども、明日からのほんのひと時の安らぎに涙しそうなリョウです。

HIMの毒舌に日々耐えている俺からすれば「ホールディングウェイークは神様に近いものを感じる。

「リョウ～、わっかから一人でなにぶつぶつしているの～？」

俺が部屋に戻ると当然のように俺のCDを勝手に聞いてる、このクレ舌なHIM。

『Huh!

Yeah, we're comin' back then  
with another bomb track  
Think ya know what it's all ab  
out』

しかも聞いてるの俺の1ヶ月かけて必死に探した大切なやつじゃねえかよ。

探すの大変だつたんだぞ。しかもいくらしたとおもつてるんだ！？

「UJの曲いいねえ～」

めずらしいなHIMが褒めるなんて。

こいつは天性のあまのじやく毒舌なのに。

(ルビを振ればなんでもそう読める小説ならではの奇跡)

『Huh!  
Hey yo, so check this out  
Yeah!  
Know your enemy!』

「ギターの音が変わってるね～」

（10分後）

あれから、HIMの曲に聞き入ってしまったようやく戻ってきた。

「これ聞いて分かったんだけどね～」

HIMが、HJの曲を聞いてる間に俺はベットのうえでイヤホンしてギターを弾いてた。

「何がわかつたんだ？」

HJのバンドのギタリストは変わった奏法をするので有難だ。

「ワウってギターアップだね～」

おれの自尊心は一瞬で消え去った。<sup>プライド</sup>

これでも後輩たちがよく俺に聞きにきたりとかしてるんだけどな・・・

・・・・・もつと練習しよう。

彼がこの先ギターで栄光を取るかどうかは作者ですから知らない。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1074d/>

---

天然彼女

2010年10月11日04時37分発行